

# 認知症カフェを活用した 本人ミーティングの実施

平成30年10月10日(水)  
舞鶴市高齢者支援課

# 舞鶴市の状況

総人口：82,949人

65歳以上人口：25,845人

高齢化率：31.16%

生活圏域：7カ所

地域包括支援センター

直営1カ所、委託6カ所

認知症カフェ：市内5カ所（平成24年から2カ所で開始）

カフェ実施箇所 内訳：委託3カ所、法人直営2カ所



# きっかけ

保健師が丹野智文さんの講演を聞き、  
**「私たちは、どれだけ本人の意見を聴いているのか」** 振り返るきっかけに。

- ・府や他市では、当事者に体験を話してもらった講演が増えている。
- ・認知症の人やその家族の視点を重視する動きもある。



**「本人ミーティングを実施してみよう」**

# 企画段階①

- ・どこで、誰が実施するか。

【検討する段階で不安に感じたこと】

- 参加者が集まるだろうか…
- 開催しても、当事者で話し合いができるのだろうか…
- 関わりのない保健師がいきなり話しを振って、当事者同士で気兼ねなく話せるのか…



「認知症カフェなら当事者の参加が多く、スタッフと当事者の関係もできている。」

**本人ミーティングができそう！！**

→参加者募集を市内全域で呼び掛けるのではなく、既に集まりのある認知症カフェで実施を検討することに。

# 企画段階②



## 【打合せまでに市で準備したこと①】

- 本人ミーティング開催ガイドブックを参考に当日の進め方を検討。

※初めての取り組みのため、市とカフェ担当者と協力して実施する。認知症カフェに丸投げしない。

- 本人ミーティングの目的を確認

『認知症の当事者が集い、自らの体験や希望、必要としていることを語り合うことで、認知症の当事者同士の仲間づくりを促進し、認知症の人の視点を重視したやさしい地域づくりを考えるための機会とする。』

# 企画段階③

## 【打合せまでに市で準備したこと②】

- ・ 全体の司会は市保健師が努める。
- ・ グループ内の進行は、認知症カフェ担当者が行う。  
(顔なじみの方が、本人が発言しやすいだろう)
- ・ 話し合うテーマは3つに絞る。  
(当事者は認知症初期の方は少なく、中等度の方も含まれているため、テーマは分かりやすい言葉で表記)

# 打合せ

- ・ 認知症カフェ担当者に本人ミーティングの実施を相談。  
【カフェ担当者から出た意見】
- ・ カフェに来ている人は、認知症の進行具合もまちまち。  
話せるかな？
- ・ 認知症カフェをしているが、本人のアセスメントはしていても、**思いをストレートに聴いたことはない。**

本人ミーティングをする以前に、認知症カフェは、本人や家族の思いを表出できる場であり、ピアサポートの場にもしていくべき。



1度実施してみることに。

# 本人ミーティング当日

## 【気をつけたこと】

- 話す内容がわかるようにテーマを掲示する。
- 本人の言葉で話せるように、話を遮らないようにする。
- 記録時は、本人が話したままの言葉を残す。

# 話し合ったテーマ

## テーマ1

認知症と してってかんじたこと

## テーマ2

やりたいこと

## テーマ3

生活をしていて不自由にかんじている  
こと

# 実施場所

## にじカフェ（舞鶴赤十字病院）



スタッフ：カフェ担当者（OT、ST）、

高齢者支援課保健師 2 名

日時：平成29年11月16日（木）

14：30～15：30

参加者：本人 6 名、家族 8 名

# 実施場所

## げんき元気カフェ（丸山の家）



スタッフ：カフェ担当者（介護福祉士）、  
高齢者支援課保健師 2名

日時：平成30年3月7日（水）

10：00～12：00

参加者：本人 5名、家族 4名、  
地域のボランティア 2名

# 当事者グループの様子



一つずつ白  
板にテーマを  
張り出し。

カフェ担当者をグ  
ループに配置し、  
話しやすい雰囲気  
づくりを。



# 家族の様子



当事者グループとは離れた  
場所で実施



# 本人から出た意見①にじカフェ

## テーマ1 「認知症として感じたこと」

- ・ 認知症って知って、「そうかい」と思った。真剣に考えたことはない。
- ・ 認知症って知ってどうなるもん？忘れること？忘れているとは、しょっちゅう言われる。言うたことはわかっている。**自分では真面目に話しとるけど、相手は認知症と思うかもしれないな。**
- ・ 自分は、慣れた。第3者の人も含めて、**どういう風に見ているのかと思う**。それを知って別にどうこうないが、村の例会とか出る時は気を遣うが、普段はそんなに気にならない。

# 本人から出た意見②にじカフェ

## テーマ3 「やってみたいこと」

- やりたいなと思っても、体が動かない。頭がないから、体を動かすしかないけど。
- **認めてもらえる人がいたら嬉しい。できたということも嬉しい。**

# 本人から出た意見③げんき元気カフェ

## テーマ「現在の状況について」

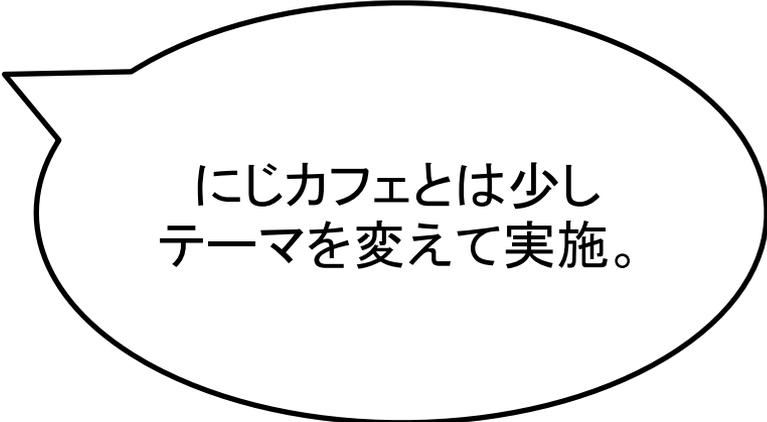
- ・他市から引っ越してきた。子どももなく、相談できる人はいない。
- ・不便なことはない。

## テーマ「相談できる人はいるか？」

- ・自治会に入っていない。町内の食事会もいつあるか知らない。
- ・壁を作ったらあかん。
- ・腹を割って話せる人はいない。

## テーマ「カフェへの要望」

- ・皆とたくさんお話しをしたい。
- ・花見に行った時のように外出したい。



にじカフェとは少し  
テーマを変えて実施。

# 家族から出た意見

- ・薬はちゃんと飲めとるかどうかわかんわ。でも、訪問看護師さんの言うことはよう聞くんや。
- ・昔のことは本間によろ覚えとるけど、ついさっきのことを何回も聞いてくるしな～。  
→お宅も同じですか～。

(夫がこの春にグループホーム入居になり、妻のみ参加)

- ・今でも施設に入れたのが良かったのかどうか…？かわいそうなことしとるかな～と思うこともある。

(女性介護者の会話の中で)

- 男の人は仕事の意識がいつまでも残るようだという意見が多数あり
- 服についての話題もあり
  - ・必要ないのに寒いといって服を5枚くらい着込んだりする。どうしてそうなるのか不思議ではない。

# 実施して困ったこと

- 本人と家族のテーブルが近いと、お互いが気になり、うまく話せない。
- 認知症の進行具合により、テーマを出していても、内容がそれていく。時折、担当者が質問を入れて、修正していった。

# よかったこと

- 普段のカフェの活動では知ることのない本人の思いを聴く機会になった。  
認知症カフェ担当者としても、「そんなことを思っていたんだ」「今回のようにストレートに尋ねてもよいのかもしれない」
- 家族のみで話すことで、ピアサポートの場になっていた。
- 実施にあたり、特別な準備が必要ない。

# 今後に向けて

- 認知症カフェ担当者で本人ミーティングを自主的に開催していく。
- 本人や家族から出た意見を認知症カフェの取り組みに活かしたり、その他事業に反映させていきたい。（認知症介護家族のつどい、関係者向けの研修など）
- 認知症カフェの場所以外でも実施していけたら。